



大江戸線延伸の熱い思いを 国土交通大臣へ要望

～促進大会の決議を受け、要望書を提出～

24日、志村豊志郎練馬区長（大江戸線延伸促進期成同盟会長）は、区議会議員とともに太田昭宏 国土交通大臣に対して、大江戸線延伸の早期延伸に関する要望書を提出した。

志村区長は、土地区画整理事業をはじめとする区がこれまでに行ってきたまちづくりについて触れたうえで、「東京都が行う事業であるが、国においても支援をお願いしたい。」と申し入れた。

太田国土交通大臣は「運輸政策審議会の答申で位置づけのある計画でもあり、国としても支援したい。」と話した。

大江戸線延伸促進期成同盟は、今年11月17日に行われた「大江戸線延伸促進大会」で、地域の力を結集して、国や東京都に対し、早期延伸の実現を要請していく旨の決議を行っており、今年12月17日には東京都へ要望書を提出している。



太田国土交通大臣へ要望書を手渡す志村区長



大江戸線延伸促進大会の会場の様子。会場一杯の区民が集まる中、開催された。（11月17日開催）

【要望書】 別紙資料のとおり

【これまでの取り組み】

平成12年1月、運輸大臣（現国土交通大臣）の諮問機関である運輸政策審議会（現交通審議会）は、光が丘から大泉学園町への延伸を「2015年までに整備着手することが適当な路線」として位置づけている。

練馬区は、区北西部の鉄道空白地域を改善するため、大江戸線延伸の早期実現を区政の最重要課題の一つとしている。区民・区議会が一体となって「大江戸線延伸促進期成同盟（会長 志村豊志郎練馬区長）」を設立し、25年間、延伸促進活動に取り組んでいる。

区は大江戸線の導入空間となる補助230号線の整備にともない、土支田中央土地区画整理事業や地区計画など、沿線地域にふさわしいまちづくりにも取り組んでいる。さらに、大江戸線延伸推進基金を設立（平成23年4月施行）し、毎年継続的に積立てを行っている。

【問い合わせ】 都市整備部大江戸線延伸推進課大江戸線延伸推進担当係 電話 03-5984-1584

(写)

都営地下鉄大江戸線の早期延伸に関する要望書

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

都営地下鉄大江戸線は、練馬区民にとって欠かすことのできない交通機関として多くの方に利用されているばかりでなく、沿線地域のまちづくりに多大に寄与しております。また、東京都区部においても残り少ない鉄道空白地域の一つである練馬区北西部地域の住民にとって、都営地下鉄大江戸線の大泉学園町への延伸は長年の悲願であります。

大江戸線延伸促進期成同盟では、幾度となく国や東京都に対して地下鉄の延伸をお願いしてまいりました。その結果、平成 12 年（2000 年）の運輸政策審議会答申第 18 号では、「少なくとも目標年次（2015 年）までに整備着手することが適当である路線」として具体的に位置付けられました。一方、導入空間である都市計画道路補助第 230 号線の整備に時間が要すると見込まれ、速やかな整備着手は困難であるとされました。

このため区では、区として初めてとなる公共団体施行の土地区画整理事業を行い、導入空間を確保してまいりました。現在、補助 230 号線は、大泉学園通りまでの全区間が事業化され、笹目通りから土支田通りまでの約 1.1 km の区間では、すでに交通開放されるまでに至り、18 号答申時における課題は确实かつ着実に解決する目途がたちました。

また、新駅が予定されている三箇所では、すでに交通広場用地を準備するとともに、早期延伸に資するための「大江戸線延伸推進基金」を創設し、継続的な積み立ても行なっております。

さらに本年、11 月 17 日に行われた「大江戸線延伸促進大会」では、前回大会の参加者数を大きく上回り、非常にたくさんの方に参加していただきました。

このように、導入空間の確保が大きく前進し、大江戸線延伸の早期実現に対する住民の期待は大変高まっております。運輸政策審議会第 18 号答申の基本方針に従い、早期の実現に向け支援していただけますようお願いいたします。

平成 25 年 12 月 24 日

大江戸線延伸促進期成同盟

会長（練馬区長） 志村 豊志郎

国土交通大臣 太田 昭宏 様